色川盆踊り（2009 年 8 月 14 日）

盆踊り会場である円満地公園にて会場設営を手伝う。

テントを張ったり、提灯をぶら下げながら、「参加して大丈夫かな」と思う私たちであったが、色川の人たちから声をかけていただけた。

そのお陰で、「参加しても大丈夫か」という不安が少し解消された。

6：00 頃、ぽつぽつ人が会場に集まりだす。
子供も 10 人くらいおり、どうやら色川に帰省している模様。小阪地区では普段子供を 1 人も見たことがないので新鮮だなぁ～と眺めていたら、そこでいい光景。

村の子 2 人が、帰省した子を捕まえて「お前いくつや？」と聞く。年を答えた子に対して「じゃあおれのほうが 1 つ上やな。遊んだる」といってその子をひきつれていった。

これは都会の子供同士ではなかなかすぐにはできないのだが、ここの子供たちは円満地公園に着いてすぐに友達をつくっていた。このようなことも村を守る大きな要因であると感じた。

↑ 3 種類の踊りがある色川の地踊り

7：00、盆踊りが始まる。始めは 3 人くらいが踊り、そこからぽつぽつと人が増え、ひとつの大きな輪ができる。

真ん中では 3 人くらいの方々が交代で酒を飲みながら歌を歌い音頭をとる。（色川の盆踊りで使われる歌は、全て地歌で地元の人がその場で歌います。）何回か歌が途切れ、その都度みんな戸惑ったり、隣の人と話をしていたが、これもいい感じをだしていた。

↑ テープなどは使わず生で謡います。

私たちは踊りを見よう見まねでしてみるが、これが難しい･･･。熊瀬川のおばさんから丁寧な指導をしていただき、最後に笑顔で「簡単でしょ♪＾＾」と言われたが…5%も出来ていない（T.T）
「恥を忍んで」と飛び入り参加！見よう見まねで頑張る。初めはうまくいかなかったが、意外となんとかなったと思う。＾＾；

このほかの感想を箇条書きで書くと･･･

･帰省者、特に若者が多くみられた。（金髪のロックやってそうな人もいた。）そこで「いまどうしてる？」とか「最近は･･･」といったことを話しており、盆踊りは街へ出ていった若者を、年に一回集まらせてくれるんだ！ということも感じた。

･お店も繁盛しているように感じた。前回のほうが多かったと聞いていたので、これ以上か！と感じる。やはりこの盆踊りが皆を色川に呼んでいるんだと感じた。

･以前色川を調査したときにお世話になった小阪の方々に出会う。覚えてくれているかなと不安ながら声をかけたが、覚えていただけていた。「あんたの名前は覚えてないが、顔はよぉ覚えとる」と言われた。嬉しい^^

･色川の方から2つの話を聞く。
ひとつは盆踊りのこと。「昔の盆踊りといったら隣町でもどこでも、好きな人とどこか（橋の下など）で待ち合わせをして行ったもんだ、盆踊りはそういうもんだ！」なるほどと思う。盆踊りの歌詞にそのようなニュアンスを含む歌もあったことからより説得力のある内容。
ふたつめは百姓について。「百姓は漢字のごとく、百の仕事をこなさないといけない！」と言われ、日本史大好きの私だが、今までそれを考えたこともなく、すごく驚いてしまった。。（その百の仕事を調べてみたいと思う。）

翌日の朝8:00。円満地公園で清掃。予定の20分ほど早く到着し、先にできることをしようと思ったが、もうすでに皆さんお揃いで焦る。。^^;後で聞いた話だが、このような機会ではたいてい1時間は早くみな集まるそうです。。。あわててお手伝いさせていただいた。

8:50 作業終了。バスに乗って勝浦まで降りようかと思ったが、古座川町の盆踊りに参加していた学生さんが迎えに来てくれるということになったので前日お世話になった方の家に挨拶にいく。

昨日お昼ごはんもいただき、何もお返しができていなかったので、木をきり、薪を作るお手伝い開始^^

木をのこぎりで切るが下手な私は苦戦。家主の方はもちろんのこと、もう一人の学生さんもかなり上手い！！なんとかしないとということで、その時地元のおじさんから教えていただいた鉈使いで、木を細かくしていった。

作業が終わり一息、お水をいただいた。美味しい！！お水がこんなに美味

しいのか！と思うくらい美味しかった！休憩中に昔の盆踊りの話を聞く。「父親が盆踊りに行かせなかった」話である。それは子供たちだけで盆踊りに行くことは危険があるということだったようだ。（父親は盆踊りに行くことを嫌い、母親は仏様を祭るために家で忙しい状態にあった。）

その後私たちを迎えに来てくれる学生さんと合流するために、再び円満地公園を目指し歩く。円満寺公園を通過してから 15 分、道は続き・・・失敗したと思った。＾＾；

「あの川の流れに身を任せ、下って行けば楽かな」と川を見ていると一台のトラックが止まる！今回の祭りで指揮をとり、朝の片づけの後でも声をかけてくださった青年会の会長さん！現在 33 歳の元和歌山大学の学生！「どこまで歩くん！？」と驚きながら声をかけてくださる＾＾；

話をすると満面の笑顔で「昨日は手伝ってもらって助かった！乗ってけ！」と送ってもらえることに！！心がジーンとする。トラックに乗りながら、村の人が都会と違うのはなぜか、改め実感する。相手のことを思い、自分のできることをしながら助け合いをする。やっぱり村って素晴らしい。そう感じていると途中で車が止まる。看板には塩の文字。「ここで塩作ってる！」ということで、塩工場の黒潮本舗を見学させていただいた！

↑ 山奥での塩作り！？

塩は海水を取りにいくことから始める。海から遠い山の中で塩を作るのはデメリットが多いように思うが、燃料としてまきが使える、空気がきれい、などを挙げると、なるほど、山の中でもいいと思う。
その後私たちはトラックで古座の海岸線まで送っていただいた。本当に感謝です。今度改めてお礼をいいに行きたい。

帰り道　思わぬ発見。海岸線を通る途中、祭りのやぐらを 3 つ発見した。やはりこの時期、どこでも行われており、色川のような交流があるのだと思った。

やはり村の持つ魅力は多く、文章に表せないくらい多いです。。何度か、できる限り長い期間、色川や他の地域にも訪れ、いろいろ感じたいと思った。